

EW (野生絶滅)

コウノトリ目 トキ科

トキ

Nipponia nippon (Temminck, 1835)

英名: Japanese crested ibis

カテゴリー判定基準: ①

旧レッドリストカテゴリー		
1991	1998	2007
E	EW	EW

明治時代より以前は、トキは北海道から九州まで広く記録があった。しかし、明治時代以降、乱獲や農薬による餌動物の減少、山間部の水田の消失等により個体数は減少し、1981年に野生絶滅、2003年に日本産最後のトキが死亡して、日本産のトキは絶滅した。しかし、1999年に中国から贈呈されたトキを増殖させることに成功し、現在、放鳥によって野生復帰に成功している。

Before the Meiji era, there were records of Ibis from Hokkaido to Kyushu. However, after the Meiji era, over-fishing and the use of pesticides along with the disappearance of rice fields in mountainous areas, the number of Ibis decreased and in 1981 it became extinct in the wild. The last Ibis born in Japan died and became extinct in 2003. In 1999 China gifted Japan with an Ibis and it has been successfully bred so that now Ibis have been successfully released back into the wild.

基礎情報

■**形態** 全長約75cm。全身がピンク色かった白色で、トキ色と呼ばれる。顔の半分は皮膚が露出しており、露出している皮膚は赤色。嘴は長く下に沿っており、黒色で先端が赤い。脚は赤色。頭部には細長い冠羽が房状になっている。繁殖期に近づくと、頸部の皮膚は内分泌によって黒くなり、その黒色の皮膚が脱落し始める。それを上半身に塗りつけるため、身体は黒灰色となる。

■**分布域** ロシアのウスリー地方、アムール地方、中国東北部から中部にかけて、朝鮮半島、日本に分布していた。日本では、明治時代に入るまでは北海道から九州まで広く記録が残っている。

■**生息環境** 大径木の多い山間部の谷間で、水田や沢がある場所に生息。冬は人家近くの水田にも飛来していた。中国では大きな河川にも飛来する。

■**生活史** 繁殖期は4～6月で、アカマツやコナ

ラなどの高木の横枝に、枯れ枝等で皿状の巣を作り、産座には枯れ葉や枯れ草などを敷いて2～4個の卵を産む。雌雄で抱卵し、28～30日で孵化。育雛は雌雄で行い、吐きもどしを給餌する。雛は約1ヶ月で巣立つ。繁殖はそれぞれのつがいが分散して行う。採餌は水のある泥地や水田で、嘴を泥の中に差し込み、ドジョウ、タニシ、カエル、昆虫などを捕らえて食べる。

現在の生息状況

■**分布域の現況** 中国では、陝西省の洋県で1981年に7羽が記録された後、飼育による保護増殖が進み、現在では中国の洋県を中心に広く分布している。日本では佐渡島で野生復帰が進められており、分散によって一時的に佐渡島以外でも確認されている。

■**生息地の現況** 日本では地元住民、地元NPO、民間企業、ボランティア、関係行政機関が連携して、ビオトープ整備をはじめとするトキの生息環境整備が進められている。

■**個体数の現況** 中国では、1981年に陝西省の洋県で7羽が確認されてから保護増殖が進み、

現在の数にまで増加した。日本では、明治以降、乱獲や農薬による餌動物の減少、山間部の水田の消失等により減少し、大正時代末には絶滅したと考えられていたが、1932年に佐渡島で再発見された。しかし、再発見された個体も減少し、1981年に野生絶滅、2003年に日本産最後のトキが死亡して、日本産のトキは絶滅した。しかし、1999年に中国から贈呈されたトキを増殖させることに成功し、現在、放鳥によって野生復帰に成功している。2012年12月現在、中国では野生個体1,044羽、飼育個体665羽、計1,709羽、日本では、2008年から行われている野生復帰による放鳥で、2013年12月現在、生存が確認されている個体数は86羽、これに野生下で生まれた個体12羽を加え小計98羽、飼育個体が187羽、計285羽。なお、韓国にも飼育個体が28羽いる（2013年12月現在）。トキの総個体数はおおよそ2,000羽と推測される。

存続を脅かす要因

飼育個体の放鳥なので、猛禽類や肉食哺乳類などの天敵による被害が大きいと思われる（52-4）。

保護対策の現状

種の保存法に基づく国内希少野生動植物種お

よび、国指定の特別天然記念物。1980年にはトキの生息地が国指定鳥獣保護区に指定されている。また、1993年より始まったトキ保護増殖事業計画では、トキの生息に適した環境を整備している。1999年には、中国から贈呈されたトキにより、初めて繁殖に成功した。その後、飼育下での増殖が順調に進み始めたことから、2008年から佐渡島で再導入に着手（毎年、放鳥を実施）。2012年には、放鳥したトキによる野生下での繁殖が確認され、2014年にはさらにその個体からの繁殖も行われ、野生下でも世代を重ねている。

特記事項

本種の分類は、日本鳥類目録改訂第7版（日本鳥学会 2012）においてペリカン目に変更されているが、本書では先に公表された第4次レッドリストとの対応を図るため第6版に準拠した。

参考文献

- 中村登流・中村雅彦，1995．原色日本鳥類生態図鑑（水鳥編）．保育社，大阪．
日本鳥学会，2012．日本鳥類目録改訂第7版．日本鳥学会，三田．438pp．
日本鳥類保護連盟，2002．鳥630図鑑．日本鳥類保護連盟．東京．
日本鳥類保護連盟，2013．環境省請負業務平成24年度日中トキ生息保護協力業務．日本鳥類保護連盟．

執筆：藤井幹（公益財団法人日本鳥類保護連盟）